

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年11月4日（月）～令和元年11月10日（日）〔令和元年第45週〕の感染症発生状況

第45週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。

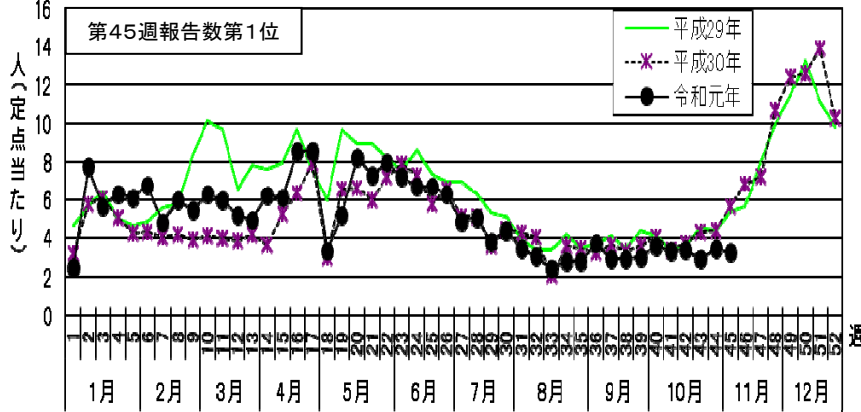
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.27人と前週（3.49人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.03人と前週（2.76人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

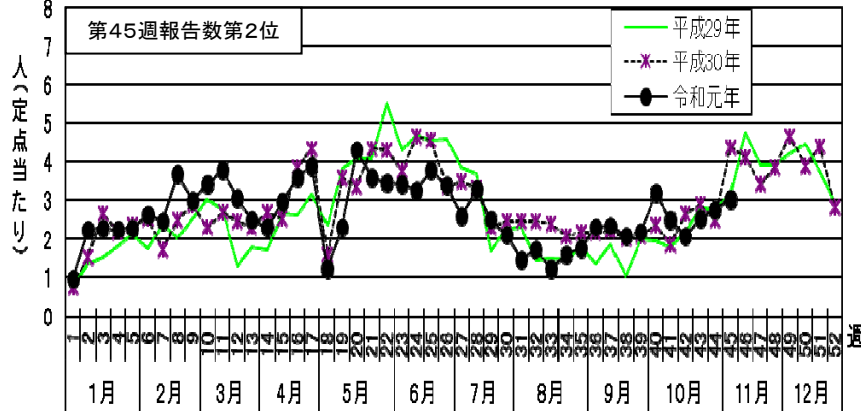
流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は1.67人と前週（1.78人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告数が急増しました！

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、主にA群溶血性レンサ球菌の感染によって引き起こされる感染症です。突発的な四肢の痛み・腫れ、発熱、咽頭炎などから始まり、発病すると急速に症状が重篤化し、多臓器不全やショック状態から死に至ることもあります。

川崎市における報告数は例年10件以下でしたが、令和元年第45週（11月4日～11月10日）に4件の報告があり、累積報告数も15件と過去10年間で最多となりました。理由は不明ですが、男性の報告が非常に多く全体の80%を占めています。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症とは？

【感染経路】

創傷感染、上気道感染、手術部位感染など

【主な症状】

《初期症状》

四肢の痛み・腫れ、発熱、咽頭炎、血圧低下など

《発病後数十時間以内》

ショック、播種性血管内凝固症候群（DIC）、軟部組織壊死、急性腎不全、多臓器不全など

【好発年齢】

30歳代以上

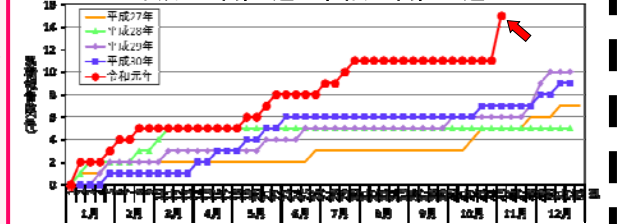
【治療】

抗菌薬治療、病変部の切除など

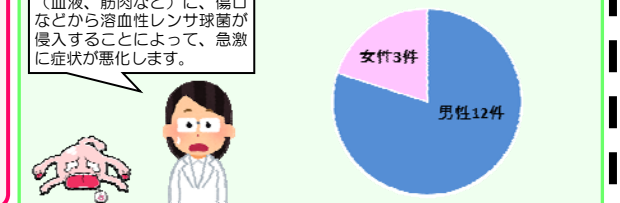
※症状の進行が早いので、早期発見・早期治療が重要です。



川崎市における劇症型溶血性レンサ球菌感染症累積報告数
—平成27年第1週～令和元年第45週—



川崎市における劇症型溶血性レンサ球菌感染症男女別発生状況—令和元年第1週～第45週—



通常は菌の存在しない組織（血液、筋肉など）に、傷口などから溶血性レンサ球菌が侵入することによって、急激に症状が悪化します。

